

## プロジェクト背景/クライアントの課題

- クライアントは米系のグローバル金融機関
- 以下の問題により、新しいHRサービスデリバリーモデルの導入を検討
  - ・ HR業務の多くがマニュアル作業に起因しており、紙ベースの作業が膨大
  - ・ 各国のHRポリシーや人事業務プロセスが未統一なため、業務の進め方が非効率
  - ・ 各国で異なるシステムが導入され、データの基準が未統一なため、グローバルでのデータやレポートの値が不正確
- 日本のグループ会社が複数社に及び、複雑度が高いため、新しいHRサービスデリバリーモデル(地域HRシェアードサービスセンターの設立含)を、段階的に導入

## プロジェクトの効果

- 新しいHRサービスデリバリーモデルの導入により、HR業務プロセスの標準化、グローバルテクノロジープラットフォームとしてのWorkday導入、HRサービスの効率的な提供を実現
- 新しいモデルの導入による具体的な効果は以下の通り:
  - ・ HRの事務業務の負荷を軽減することで、高付加価値業務へのシフト
  - ・ シンプルで統合されたグローバルのポリシーやプロセスに基づいて業務を進めることでHRサービスのコンプライアンスや質の向上
  - ・ 統合されたグローバルHR関連情報システム等のよりよいツールの活用
  - ・ リアルタイムで正確な従業員データやレポートの抽出

## 主要アプローチ/プロジェクトのポイント

	ディスカバリー/ 情報収集	テクノロジーデザイン&ビルド/テスト	Go-Live/Go-Live後サポート
<b>フェーズ I: HRIS導入</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 複雑度を理解するための日本各社の初期情報収集</li><li>■ 日本固有の要件を特定するための、ローカライゼーションワークショップの実施</li><li>■ ステークホルダーを明確化し、必要なコミュニケーションプランの作成</li><li>■ プロジェクトに関するコミュニケーションの実施</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>■ グローバルシステムをローカル要件に基づき改修し給与システムとのインターフェイスを構築</li><li>■ 以下を実施:<ul style="list-style-type: none"><li>・ データ移行</li><li>・ System Integration Test (SIT), Quality Assurance Test (QAT), User Acceptance Test (UAT), Service Rehearsal Test (SRT)</li><li>・ エンドユーザートレーニング、ステークホルダーへのコミュニケーション</li></ul></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 本番環境へのアクセス確認</li><li>■ Go-Live/ Post Go-Liveメッセージの配信</li><li>■ Go-Liveへ向けての最終準備と、稼働後の問題に対するサポート</li><li>■ 次フェーズにて活用するための、Lessons Learnedのまとめ</li></ul>
<b>フェーズ II: HRSS 設立</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 新HRシェアードサービス(HRSS)センターの立地に関するデータ収集と決定</li><li>■ 新ロケーションとHRSSのスタッフに関するデューデリジェンスを実施</li><li>■ ステークホルダーを見直し、コミュニケーションプランの作成</li><li>■ プロジェクトに関するコミュニケーションの実施</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>■ HRSS設立準備として以下を実施:<ul style="list-style-type: none"><li>・ HRSS用に資料を日本語化:システム手順書、操作手順書、プロセスマップ、コールセンタースクリプト、FAQ 等</li><li>・ 新しい案件管理システム・コールセンターシステムの導入</li><li>・ 新ロケーションの什器の手配・設置</li><li>・ HRSSメンバーを社内外から採用</li><li>・ HRSSメンバーへのトレーニング実施</li></ul></li><li>■ 以下を実施:<ul style="list-style-type: none"><li>・ SIT, QAT, UAT, SRT, ドキュメンテーションテスト</li><li>・ エンドユーザートレーニング、ステークホルダーへのコミュニケーション</li></ul></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 本番環境へのアクセス確認</li><li>■ Go-Live/ Post Go-Liveメッセージの配信</li><li>■ Go-Liveへ向けての最終準備と、稼働後の問題に対するサポート</li></ul>